



圧倒的差を見せつけ勝利した直後に観戦していた他のライバルチームの選手が言っていたセリフです。こんな言葉を去年の大会中聞き、自分の選手たちを誇りに思い、興奮したものでした。

今年もライバル校主催の野球大会が、先日神戸で開催されました。例によって最初のゲーム前の整列では、本校の生徒たちは、前にならんだ相手の体の大きさに驚き、伏し目がちになり、萎縮しているようでした。

「さあ元氣出して行こう、俺らは一生懸命練習してきたよな、絶対に勝てるよ!積極的なプレーで、最後まであきらめずに自信持っていこうぜ!」

こんな掛け声をかけると、選手たちはそこからはいきいきとしてハッスルプレーで最初の整列での自信のなさはどこへやら、..、終わってみれば圧倒的な勝利でスタートしました。

そして、いよいよライバル校との試合、今年もお互い実力は拮抗し、事実上の決勝戦。出だしから、お互いファインプレー連発で、今年もとてもレベルの高い、締まった試合展開になりました。しかし、要所、要所でチャンスを生かした本校が2-0でリードしていました。しかし、6回裏に大きな落とし穴が、..、なんとエラーと四球とヒットで2-3と逆転されたので

す。そして、最終回の攻撃も2アウトでランナー無し。万事休すかと思い、監督である私も半ばあきらめ気味でした。しかし、選手は誰一人あきらめておらず、「たった1点差やんけ〜、まだまだこれからやで〜」と大阪弁丸出しの掛け声に、皆が乗り、次のバッターが四球で歩いたと思ったら、その次のバッターの初球に盗塁成功。一気に盛り上がり、2アウトながら1打同点のチャンス。そして、次のバッターが奇跡の逆転ホームラン。ライバル校との完全アウェーの試合で、回りはすべて相手チームの応援の中、まさに場内が凍りつくような瞬間でした。そして、次の最終イニングも場内の悲鳴を浴びながら、3人で締めて4-3でゲームセット!歓喜の優勝で今年も締めくくりました。

「さあ元氣出して行こう、俺らは一生懸命練習してきたよな、絶対に勝てるよ!積極的なプレーで、最後まであきらめずに自信持っていこうぜ!」

監督ですら忘れそうになっていたこのセリフで、奇跡を起こした、無限の可能性を秘めた生徒たちと、これからも張り切って練習し、スポーツにときめこうと思っています。

相良 宗孝(さがら むねたか)

千里国際学園 中等部・高等部 体育科・入学センター

大学卒業後、社会人として数年間勤めたあと、ニュージーランドの公立大学で職員・寮長として勤務。その後、縁あって2001年より現職。学生時代に専門的に取り組んだスポーツはラグビーであるが、現在は野球に本気で取り組んでいる。月曜日から土曜日は教師やコーチとして野球その他のスポーツに「教える立場」で取り組んでいるが、日曜日には地元の野球チームで選手として奮闘する現役アスリートに変身。また、コーチのレベルアップを図り、今年4月より大学院の社会人コースで学んでいるので、平日夜には学生にも変身する。



千里国際学園 中等部・高等部

〒652-0032 大阪府茨貫面市小野原西 4-4-16

TEL : 072-727-5070 FAX : 072-727-5055

HP : www.senri.ed.jp E-mail : admissions@senri.ed.jp



千里国際学園は、同じ校舎で共生する大阪インターナショナル(OIS)に合わせて、スポーツのシーズン制を採用しています。

小規模校で選手確保も大変な野球チームの、限られた期間だけの活動ですが、その苦労と感動はどの相手にも負けず、選手・コーチが一体となって「ときめき」をエンジョイしていますね。(拍手!)

相良先生、ご苦労様でした。次の機会に、千里の目指す「最高のスポーツマン」は何かを紹介してもらえますか? よろしく、お願いします。